

# 祖父母による経済的支援と「孫消費」

ライフデザイン研究本部 研究開発室 上席主任研究員 北村 安樹子 (きたむら あきこ)

## 老後のライフデザインと世代間関係

日本の高齢者が望ましいと考える老後の世代間関係は、子や孫といつも一緒に生活する「同居密着型」から、ふだんは別々に暮らし、ときどき会って交流を楽しむ「別居交流型」へと変化してきた。内閣府が60歳以上の男女に行っている調査でも、1980年時点では「子や孫とは、いつも一緒に生活できるのがよい」との回答が約6割を占めていたが、近年では「子や孫とは、ときどき会って食事や会話をするのがよい」とする人がこれを大きく上回るようになっている(資料1)。

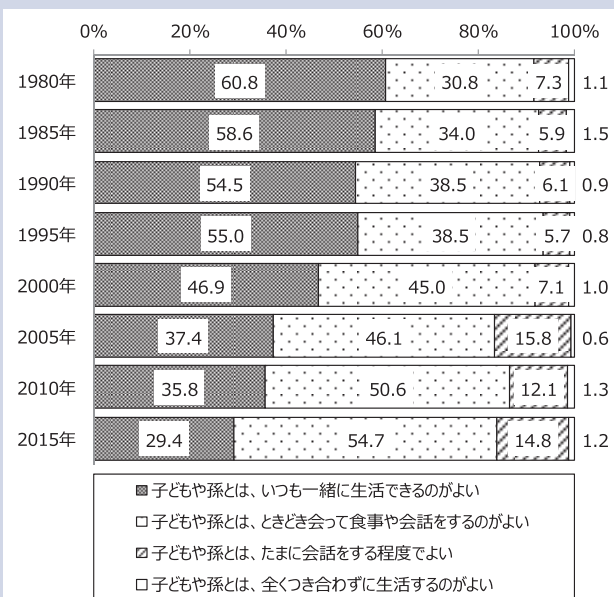
実際の高齢者の家族形態をみても、子や孫とともに暮らす三世帯世帯は減少し、単身や夫婦のみで暮らす世帯が増えている。このなかには、子が独立して夫婦だけの暮らしに戻ったり、配偶者と死別するなどして単身世帯になったケースが含まれる。世代間関係という点では、孫がいる子世帯と「別居交流型」のライフスタイルを送る世帯も含まれている。

## 祖父母の楽しみとしての「孫消費」

近年、老後の生活資金に明るい見通しをもてるようになった祖父母が子や孫のために使うお金、いわゆる「孫消費」が注目されている。「孫消費」には、祖父母が子や孫と会う際の食事代や贈り物、子や孫とともに美術館やコンサート、スポーツ観戦、旅行に出かける際の費用などがある。

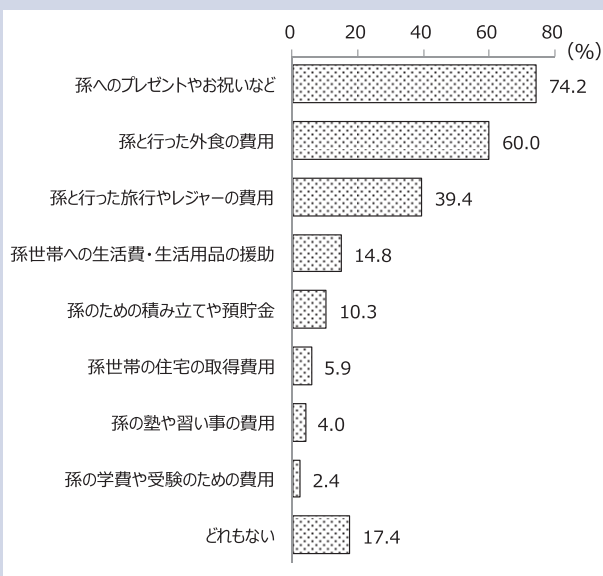
ここで、全国の孫がいる男女1,000名を対象に行った調査から、直近1年間に行った孫世帯への経済的支援についてみると、最も多くあげられた項目は「孫へのプレゼントやお祝いなど」(74.2%)であった(資料2)。以下、「孫と行った外食の費用」(60.0%)、「孫と行った旅行やレジャーの費用」(39.4%)がこれに続いている。これらは孫への経済的支援でありながらも、祖父母自身が、子や孫とのコミュニケーションを楽しむために時間やお金を使う「孫消費」といえるだろう。

### 資料1 老後における子どもや孫とのつきあい方に関する意識



(出所)内閣府(2016)「平成27年度 第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果」より筆者作成  
(注)「わからない」「無回答」と答えた人は除外

### 資料2 直近1年間に祖父母が孫世帯に行った経済的支援<複数回答>



(出所)北村安樹子「孫の教育・将来に対する祖父母の意識」[Life Design Report]第一生命経済研究所、2015年1月